ハマス：イスラエルが創った自らのネメシス

クリス・ヘッジスによるインタヴュー。脇浜義明訳、大賀英二・田中一弘補訳
「クリス・ヘッジス・レポート」（The Real News Network）,２０２４年４月３日
＊脚注はすべて訳注

平和的解決への扉を閉ざし、パレスチナ人に他の選択肢を残さないことで イスラエルはハマスという宿敵（ネメシス）を生み出した

ハマスは、アフリカ民族会議やアイルランド共和国軍らのレジスタンス・グループと同じように、誤解され悪魔化されている。ハマスは宗教的・民族主義的運動で、イスラエルや米国が言うようなテロリスト集団ではない[1]。― もっとも、多くのレジスタンス・グループ（イスラエル建国前に活動したユダヤ人民兵団も含む）と同じように、戦術としてのテロは使っている。　パレスチナの外部世界に住む人々には、ハマス形成の諸要素 ― イスラエルがパレスチナ占領地で与えている絶え間ない屈辱、暴力、貧窮化等々 ― を知らないため、ハマスの考え方が理解できないだろう。しかし、パレスチナ人にとっては、テロ以外に選択の余地が残されていないからなのだ。

ジャーナリストで歴史研究者でもあり、『ハマス：レジスタンスから政権へ』（Hamas: From Resistance to Regime)の著者であるパオラ・カリディ Paola Caridi をクリス・ヘッジス・レポートにお迎えして、ハマスの歴史と性格、一般に無思慮にハマスをテロ集団と思われている理由を語ってもらう。

クリス・ヘッジス：ハマスは、アフリカ民族会議やアイルランド共和国軍らのレジスタンス・グループと同じように、誤解され悪魔化されています。ハマスは宗教的・民族主義的運動で、イスラエルや米国が言うようなテロ集団ではありません。しかし、イスラエル国家を創設したユダヤ人民兵を含むほとんどの抵抗組織と同様、テロを戦術として用いてきました。浜氏は宗教的、民族主義的、政治的な運動です。ハマスは米国やパレスチナ自治政府（PA）が主張するようには、ガザを実効支配して住民を人質にしているのではありません。それどころか、ハマスはパレスチナ人から幅広く支持されています。パレスチナ人の代表機関とされてきたパレスチナ解放機構（PLO）がオスロ合意をイスラエルと結んでいながら、その時の約束を実現しなかったからです。それに、PLO が中心の「自治政府」がイスラエルの下請け機関になり下がったのに対し、ハマスは頑強にイスラエルに抵抗しているからです。実際、そのためにハマスはムスリム世界でもてはやされています。ハマスに対するイスラエルの凶暴な攻撃、ルーティン化しているハマス指導者の暗殺、拉致、投獄にもかかわらず、ハマスは潰れませんでした。

ハマスの非妥協的姿勢 ― １９８８年にはイスラエル国の破壊を目的と宣言し、イスラエルの各都市に自爆攻撃を行い、イスラエル領内にロケット砲を撃ち込み、そして１０・７奇襲攻撃をしてイスラエル人１２００人を殺害し、多数を人質にとった ― のため、イスラエルと米国はハマスを狂信主義集団とし、外部世界の人々にもそう思わせる情報活動をおこなっています。ハマス形成の諸要素 ― イスラエルが与える絶え間ない屈辱、暴力、貧窮化等々 ― を知らないため、米欧大国の情報に乗ってしまいます。しかし、イスラエルはパレスチナ人を徹底的に痛めつけたので、パレスチナ人にとっては、ハマスのようなゲリラ抵抗以外に選択肢がないのです。

世俗派の自治政府ＰＡが名目上占領地西岸地区を統治しているが、今や情けない植民地警察になり下がっています。イスラエルが漸増的に進める民族浄化を弱めることもしません。イスラエルは

---

[1] 日本政府もハマスをテロ集団と公式規定している。

着実に西岸地区と東エルサレムのパレスチナ人住居と土地を奪い、水資源も奪って、パレスチナ人を追い出しています。無差別に暴力を使って抵抗者や反対者を黙らせています[2]。つまり、イスラエルはいかなる平和的解決方法を閉ざしてしまい、そのために復讐の女神ネメシス、自らの頑迷で残酷なアパルトヘイト支配の鏡像を創り出したのです。

今日はジャーナリストで歴史研究者でもあり、『ハマス：レジスタンスから政権へ』の著者であるパオラ・カリディさんをお迎えして、このレジスタンス・グループ・ハマスのことを語ってもらいます。まず、ハマスの起源を取り上げましょう。ハマスの出自はムスリム同胞団ですね。ムスリム同胞団とはどういうものかを、歴史的視点から説明してください。１９６７年までガザはエジプトが支配していた領域であって、ハマスはそのガザを拠点にする組織でした。

パオラ・カリディ：ハマスはパレスチナ・ムスリム同胞団の政治的部門です。パレスチナ・ム・スリム同胞団は、地域の他のムスリム同胞団運動と同じように、ガザの難民キャンプ内部の生活に深く関わっていたし、現在も関わっている社会的宗教的組織です。ガザには現在イスラエル領となっているヤッファ、アシュドッド、アシュケロンから追い出された難民が数十万人います。彼らはガザで自分たちのコミュニティ、自分たちの世界を再度、作らなければならなかったのです。

ムスリム同胞団はガザの難民キャンプで広まったいろいろな組織の一つでした。ガザだけではありません。ガザはハマスの拠点ですが、ハマスとパレスチナ・ムスリム同胞団はガザだけでなく、また西岸地区だけでなく、外国のディアスポラ・パレスチナ人社会の中にも広がっています。ハマスは、長い内部討議を経て、社会的宗教的組織の政治部門として、パレスチナ・ムスリム同胞団から生まれたのです。私は多くの指導者や活動家と話しあいましたが、ムスリム同胞団の全員がハマスというわけではありませんが、ハマス構成員はすべてムスリム同胞団出身です。このことは、このイスラム主義運動について多くのことを物語っており、ハマスが非常に民族主義的運動であったし、現在もそうであるという事実を物語っています。

クリス・ヘッジス：あなたはハマス指導者がエジプトによって教育され、エジプトの文化的影響を受けたと、本の中で書いています。私はハマスの創設者の一人のアブデル・アジズ・ランティシ（Abdel Aziz Rantisi）と彼の奥さんを知っています。奥さんは自立した非常に印象的な女性でしたが、あなたが彼女をインタビューしたことも知っています。彼女はイスラエルのガザ攻撃が始まった初期に殺害されました。ランティシはエジプトのアレキサンドリアの大学で学び、クラスで主席だったそうです。

ムスリム同胞団について少し話してください。ナセルが台頭し、彼の世俗主義的汎アラブ主義のもとでムスリム同胞団は攻撃目標になりました。ムスリム同胞団の起源、その思想を少し話してください。その後でハマスの誕生、パレスチナ人の最初の反乱、インティファーダと直接的に関連するハマスの話に移りたいと思います。

パオラ・カリディ：分かりました。ムスリム同胞団はほぼ１世紀前にエジプトで生まれました。１０年とか２０年とか４０年の歴史ではなくて、およそ１００年の歴史を持ち、その間に宗教的・社会的運動を行い、エジプトでは一つの政治勢力になりました。それはいわゆるイスラム改革運動の一つで、聖戦主義運動やサラフィー主義運動とは異なります。大変プラグマティックな性格で、現実に即し、社会と深く関わる運動です。聖戦主義やサラフィー主義のような超原理主義運動ではありません。

ムスリム同胞団は、ある歴史的時点で、運動で暴力を使うことを放棄し、エジプトの政治世界で非暴力的な方法で社会問題や政治に取り組むことを決定しました。アフリカ・アラブ世界で珍しい自由な多党制民主主義国とされたチュニジアと同じです。しかし、パレスチナの場合は占領という

---

[2] ＰＡの治安部隊も反対者を逮捕、ＰＡ刑務所は反対者で一杯である。

状況があるので、事情が異なります。パレスチナは独立した一国ではなく、占領されている社会です。従って、パレスチナ・ムスリム同胞団は、何年にもわたってでテロ戦術をも使うことになる政治部門を作り上げたのです。

クリス・ヘッジス：パレスチナ人の反乱に対し非常に政治的にプラグマティックな対応をしたハマスの誕生ですね。

パオラ・カリディ：ええ、第一次インティファーダへの非常にプラグマティックな対応でした。ハマス誕生は１９８７年１２月で、第一次インティファーダが始まったときです。しかし、その少し前、PLO が危機に陥った１９８２年まで遡って考える必要があります。当時、PLO はレバノンのベイルートにあり、そこを追い出されて別な国で異郷生活をしなければならなかった・・・

クリス・ヘッジス：ちょっと待ってください。歴史的背景を知らない視聴者のために少し説明を入れます。イスラエル軍がベイルートを猛攻撃して占領し、ベイルートの PLO 勢力となるパレスチナ難民を船でチュニスに送る調停案が成立しました[3]。私はチュニスでアラファトやアブ・ジハードやその他の PLO 要人をインタビューしたことがあります。あなたが PLO 危機と言ったのは、そのことですね。

パオラ・カリディ：ええ。当時はまだパレスチナ・ムスリム同胞団からハマスが生まれていませんでしたが、政治部門を創るという内部討議はありました。ハマスは PLO が長年行ってきた政治路線を踏襲しない決定をしました。自分たちを住まわせてくれているホスト国の内政に干渉しないことにしたのです。ハマス指導部がダマスカスにあったとき、シリアのムスリム同胞団の問題に関わらないようにしました。PLO は、ヨルダンやレバノンの内政に干渉して内戦を引き起こしましたが、イスラム主義ハマスはホスト国内政への不干渉を決めたのです。１９８７年にハマスが発足した後、PLO がイスラエル国の存在を公式に認めました[4]。ハマスはこれに猛反対したので、パレスチナの政治舞台では反対派野党という立場になりました。

クリス・ヘッジス：結局反対は正しい反応でしたが、何故反対したのですか。アラファトと PLO はパレスチナへの帰還を許されましたが、ハマスが予測したように、パレスチナ人の期待を裏切りました。オスロ合意が署名され、PLO の西岸地区とガザへの帰還の後、何が起きたのか説明してください。

パオラ・カリディ：理由の一つはハマス創設憲章でイスラエル国の破壊を宣言しているからです。それに、ハマスではパレスチナを人間の所有物としてではなく、神が所有するものと考えています。ハマスがイスラム主義運動の一部である所以です。それに、民族としての民族主義的問題があります。パレスチナの地、パレスチナ人の存在を力説するために、難民という立場に深く関わる問題です。アラファトも難民なのですが、難民問題を脇に置く傾向がありました。ハマスは違います。ハマスは難民キャンプの中で生まれました。ハマスは難民キャンプや占領下のパレスチナ（以下、OPT という）の中の存在です。もちろん、それ以外のところにもハマスは存在していますが、難民問題がハマスにとって中核問題です。PLO はイスラエルとの交渉や合意の中で難民問題を中心にしませんでした。

クリス・ヘッジス：そうですね、PLO とイスラエルの交渉の中では難民の帰還問題は中心議題になりませんでした。あなたが著書の中で指摘したように、ガザの人口のほとんどが難民とその子孫で、

---

[3] イスラエルの地上軍が突入、レバノンの右翼勢力と組んで PLO を攻撃、死者２万人を越え、アラファトは米の仲介でレバノン撤退を決断、７千人がチュニスへ移った。そのとき、サブラとシャティーラの難民キャンプの虐殺で、難民３千人が殺害された。

[4] 先のイスラエルのレバノン攻撃に関するアラブ首脳会議で「フェズ憲章」が採択され、初めてイスラエルの生存権を認めたという背景もある。

そのガザがハマスの拠点 ― 西岸地区でもハマスの人気が高く、特に今回のイスラエルとのガザ戦争以降はハマス支持者が急増しています ― なので、ハマスにとって帰還問題は最重要事項です。一方、PLO は帰還権問題を避けていますね。

パオラ・カリディ：その通りです。現在イスラエルと西側大国が UNRWA を非難しています。UNRWA は難民とその子孫の登録名簿を持っています。UNRWA 攻撃はパレスチナ攻撃です。パレスチナ人の帰還権問題はパレスチナ問題の中核ですが、研究者やジャーナリストは長い間それを取り上げませんでした。それがガザで 2019 年に行われた帰還のための大行進やハマスの今回のアル・アクサ洪水作戦で、再び無視できなくなったのです。

クリス・ヘッジス：UNRWA はパレスチナ難民を援助する国連機関です。食糧だけでなく、学校教育も提供しています。イスラエルは UNRWA にハマス構成員を働かせていると非難し、西側の国々は UNRWA への拠出金をストップしました。そのため、ガザの人々の飢えが危機的な状況になっています。それに UNRWA の救援物資がエジプト国境やラファ検問所での人道支援も妨げられています[5]。

パオラ・カリディ：UNRWA はガザだけでなく、難民がいる世界の各地で活動、６００万人の難民の世話をしています。

クリス・ヘッジス：ハマスは第一次インティファーダで PLO と対立する独自の組織として誕生しました。PLO がイスラエルとオスロ合意を結び、パレスチナ国創立を認めるという約束をえながら、その約束やその他の合意事項がまったく実現されず、PLO に対する民衆の支持が喪失していったあたりのことを説明してください。その後で、ハマスに権力を与えたパレスチナ評議会選挙について話を進めたいと思います。

パオラ・カリディ：当時、PLO は外国にいて、ハマスは OPT で人民のための福祉などの活動をしていました。第一次インティファーダは、OPT の民衆の中から生まれたもので、外国の PLO の指導によるものではありませんでした。しかし、PLO は第一次インティファーダに飛びつき、手を焼いていたイスラエル[6]とオスロ交渉を始めたのです。ハマスはそういう政治的策動をしないで、OPT の人々を代弁する立場であったことは、強調したいと思います。ハマスと PLO, 特にファタハやアラファトとの対立は大変根深く、長年の政治と抵抗の歴史に深く刻み込まれています。PLO がオスロ合意という交渉路線を採ったのに対し、ハマスはテロ戦術を採用しました。１９９４年、ユダヤ人入植者バールーフ・ゴールドシュティン（Baruch Goldstein）によるヘブロン（パレスチナ名ではハリール）虐殺から、ハマスのテロ戦術が始まりました。

クリス・ヘッジス：ちょっとそこで話を止めてください。私はヘブロン虐殺を取材してニューヨーク・タイムズ紙に書きました。あのヘブロン虐殺が転換点だったのですね。何故そうなのかを説明してください。

パオラ・カリディ：実行犯のバールーフ・ゴールドシュティンは米国から来たユダヤ人で、ヘブロン（ハリール）近くの入植地の入植者でした。彼はアブラハム・モスクでラマダンのお祈りをしている信者に対して銃を乱射し、３０人近くを殺害しました。犯人は信者たちに殺されました。アブラハム・モスクはパレスチナでは非常に重要なモスクです。この事件は今もハリール・コミュニティで記憶として残っています。殺害された人々への追悼は４０日間も続きました。そして４０日間

---

[5] 武器または武器に使えるものが含まれていないかどうかを調査するなどの官僚的手続きのために、長期的に足止めされ、食糧は腐っている。ガザは飢饉状態に陥っている。

[6] イスラエルと戦車とそれに石をぶつける子どもの映像が世界に流れ、ユダヤ神話のダビデとゴライアテの戦いで、パレスチナがダビデ、イスラエルがゴライアテという逆転が映し出され、イスラエルを困らせた。

の追悼の後、イスラエルの町ハデラで初めての自爆攻撃が起きました。ハマスの武装グループのカッサム旅団のテロリストによるものでした。当時のカッサム旅団は武装グループで、現在の軍事部門としてのカッサム旅団とは、私は区別しています。

それが、イスラエル内でバスの中、喫茶店などで民間人に対する自爆攻撃の連続という悲劇的時代の幕開けでした。ハマスの武装グループが自爆攻撃をやったのですが、ハマスだけではありませんでした[7]。自爆攻撃が止んだのは、ハマス、イスラム聖戦、パレスチナ党派のすべてが２００５年カイロで自爆テロ攻撃をやめるという合意に署名してからで、それから２００６年の評議会選挙とPA 議長選挙が行われました[8]。議長選挙ではアブ・マゼン（Abu Mazen、アッバス）が PA の新議長になりました。

クリス・ヘッジス：選挙は国際社会のしっかりした監視下で行われましたので、重要なものでした。ハマスも参加し、立候補者を立てました。確実に自由で公正な選挙でした。この２００６年選挙の後どうなりましたか。

パオラ・カリディ：付言すれば、国際社会の監視だけでなく、国際社会はこの選挙を支援し、イスラエルもエルサレム在住のパレスチナ人に投票することを許可しました。ハマスの選挙参加の条件としてイスラエル国を承認せよという要求もありませんでした。これは重要な点です。ハマスは、曖昧な形ですが、ＰＡの議会にあたるパレスチナ評議会の選挙に参加することで、ＰＡを認めたからです。これはハマスの大きな変化でした。ハマス活動家たちが内部討議を経て投票でそう決めたのです。

選挙では、厄介なことにハマスが勝利したのです。多分評議会の中で強力な野党的地位を獲得する程度の得票を得るだろうと、イスラエルも、いやハマス自身も思っていたが、予想をはるかに上回って、評議会選挙で圧倒的に勝利したのです。これでハマス、ファタ、国際社会の態度がそれぞれ変化しました。つまり、国際社会とイスラエルは、ハマス与党政府が成立したら、その輸出入を事実上禁止する処置を決めました。

それから数か月後、パレスチナ政治が分裂しました。２００７年６月にハマスがガザでクーデターを起こして統治権を獲得しました[9]。西岸地区はファタ主導のＰＡが統治し続けましたが、人民の支持はあまりありませんでしたし、今もそうです。やがて、イスラエルはガザを封鎖し、ガザとＯＰＴを引き離しました。この亀裂によって、パレスチナ国樹立という思想も事実上死んで、パレスチナ政治の不統一という深刻な問題を引き起こしています。

クリス・ヘッジス：この分裂は、パレスチナ国反対というネタニヤフの政治路線に沿うもので、彼は大いに分裂を支持していますね。このために、ハマスはイスラエルが作り出したものという言説が生じました。ハマスが誕生した頃、私はガザにいましたが、当時ガザにいたイスラエル軍の弾圧は、ハマスよりＰＬＯやファタに対してより厳しいような印象を受けました。イスラエルはイスラエルに敵対的な世俗勢力ＰＬＯに代えて、宗教勢力にパレスチナを統治させたかったかもしれません。どちらにしても、パレスチナ指導部の分裂はイスラエルにとって有利だと誤って考えられてい

---

[7] 当時私はラマッラーのビルゼイト大学で学生たちと「自爆攻撃」について議論したとき、学生たちは、爆弾さえあれば自分も自爆攻撃したいと言ったのを覚えている。

[8] イスラエルはパレスチナ人囚人の一部を釈放し、要人暗殺工作を停止し、西岸地区の治安維持権限の一部を PA に委譲し、それに対しアッバスは急進派を説得して攻撃を抑制させた。３月のカイロ会議で自爆テロを停止、評議会選挙、ハマスの PLO への加盟と選挙に参加することが決定された。

[9] 選挙結果から見れば、クーデターを起こしたのはＰＬＯ側だと言うべき。ファタの武装団のボスであるムハンマド・ダーランが米とイスラエルから武器供給を受けてハマスに武装闘争を挑んで敗北した。以後国際社会メディアは「ハマスのガザ実効支配」と言葉で表現するようになった。

たのです。そのあたりのことをもう少し話してください。
パオラ・カリディ：ええ、当時、ハマスはイスラエルが育成したものと言う人がたくさんいました。それは、イスラエルいとってもハマスにとっても、間違った言説です。ハマスが外からやってきたＰＬＯに比べて、地元社会に深く食い込んでいましたので、イスラエルはハマスを恐れて、厳しく弾圧しました。１９８９年、１９９２年、１９９４年にハマス指導者や活動家に対する大きな弾圧の波がありました。ターゲット・キリング（標的殺害）、超法規的殺害が頻繁に起こった悲劇的時代でした。しかし、いくら指導者を殲滅しても、ハマスは潰れませんでした。２００４年３月にはハマス指導者アフマド・ヤースィーン（Sheikh Ahmed Yassin）を殺害し、その翌月にはアブドゥル・アジーズ・アル＝ランティースィ（Abdel Aziz al-Rantisi.）を殺害しました。
クリス・ヘッジス：二人ともハマス創設者ですね。
パオラ・カリディ：そうです。ハマスが評議会選挙で勝利した１年半後にも、ハマスという蛇の頭を切り落とす超法規的殺害が続きました。しかし、蛇は死にませんでした。それで、ネタニヤフはガザを西岸地区から切り離して野外刑務所のようにし、PA は西岸地区では非常に弱かったので、西岸地区の和平交渉派のパレスチナ人の頭越しにことを進めようとしました。彼の解決策は、イスラエルと中東諸国との国交正常化を促進し、パレスチナ抜きの中東地域を、米のトランプ政権の支援で、創出することでした。しかし、それは持続可能な解決にならないし、平和、相互尊重、人間的尊厳への道ではありません。その結果を、現在私たちが目の当たりに見ています。
クリス・ヘッジス：エジプトのシシ（Sisi）はムスリム同胞団を駆逐するクーデターで政権を獲得したことを忘れてはなりません。ムスリム同胞団に対する苛酷な弾圧が今もエジプトで続いています。だから、ムスリム同胞団から派生したハマスに対してもエジプト政府は敵意を持ち、その点でイスラエルと協力関係にあります。ガザを追い出されたパレスチナ人にもう一つの野外刑務所を創ろうとしています。エジプトはともかく、ハマス誕生に関するアラブ世界の反応を話してください。その後で１０・７蜂起とその後のことについて話し合いたいと思います。
パオラ・カリディ：時代によってハマスへの反応は異なります。ハマス指導部はホスト国の態度によって移動しました ― クウエートからヨルダン、それからシリアへと。アラブ革命（アラブの春）[10]と反革命の後は、トルコへ、それからカタールへと移りました。２０１１年警察の残虐行為への抗議に発するエジプト革命のあと、ハマス指導者の一人ムーサ・アブ・マルズーク（Mousa Abu Marzook）は短期間カイロに住んだことがありました。本当に短期間で、アブデル・ファタハ・シシ（Abdel Fattah al-Sisi）のクーデターとエジプト革命の終焉で、すぐに国外に出ました。アラブ世界とハマスの関係は多様で、プラグマティックですが、概してハマスに好感を持っていなかったようです。前にも言ったように、時代によって大きな変化があります。
　パレスチナに関する問題ではパトロンで仲介者の役割を果たすエジプトは親ＰＬＯで反ハマスですが、同時にかなりプラグマティックです。実際、現在、ガザ停戦、人質とパレスチナ囚人の交換の交渉に関しては非常にプラグマティックな態度です。しかし、ファタとハマスの和解交渉に関しては、オスロ後の交渉と同じで、口で言うだけで何の結果もありません。
クリス・ヘッジス：１０・７へ移りましょう。そもそも何故１０・７に踏み切ったのでしょうか。
パオラ・カリディ：厄介な難問です。それは、私だけではなく、多くの研究者にとって頭痛の種です。その問題を考えると、いやでもガザでのハマスとガザの外でのハマスとの違いに注意が向きます。ハマスが野外刑務所となったガザを名実ともに統治するようになってから、ハマス内部の力関係が変化しました。私が「ハマス」と言うときはたいていガザ内のハマスを指しています。ハマス指導者の多くはイスラエルの標的暗殺を避けて外国の安全地帯へ移りました。ガザ内部では、２０

---

[10] アラブの春では民衆はパレスチナの旗を掲げて反政府デモを行った。

１１年にイスラエル兵のギルアド・シャリート（Gilad Shalit）とイスラエル刑務所に収監されているパレスチナ囚人との交換で釈放されたヤヒヤ・シンワール（Yahya Sinwar）はガザ内のハマスで強力な指導者となっています。

クリス・ヘッジス：あなたは著書の中で、ハマスの権力構造を非中央集権的、分散的と分析しています。この分散的な権力構造のために、いくらイスラエルがハマスの首脳を殺しても、つまり蛇の首を切り落としても、ハマスが潰れないのです。ハマスの政治部門と安全保障部門との意見の相違も顕著ですね。そのあたりのことを話してください。

パオラ・カリディ：ハマスはしっかりした構造を持った政治運動体ですが、その構造は４つの選挙区から成り立っています。この４選挙区という構造はヨーロッパからみれば大変奇妙に見えます。まず領土選挙区は、ガザ、西岸地区、外国から成り立ちます。次は難民キャンプ、それからディアスポラの選挙区があり、最後の４つ目は刑務所です。一般に刑務所の話をするときは、政治運動と結び付けて考えることをしませんが、パレスチナ人の囚人は立派な政治主体で、ハマスの場合は特にそれが顕著です。

ずっと前からあったのですが、最近特に目立つのは、軍事部門という影の選挙区です。軍事部門は誕生のときからありました。２００７年の結成のときから政治部門と並んで武装組織のカッサム旅団があって、それが武装グループから軍隊化していったのです。カッサム旅団は政治的決定に影響を与えるようになりました。

ハマスの内部選挙で誰が勝つのでしょう。最近の選挙で台頭したのはヤヒヤ・シンワール（Yahya Sinwar）です。ハマス全体の指導者としてではなく、ガザ内ハマスの指導者としてです。これは必ずしもガザのハマスと外国のハマス指導部との分裂を示すものではないけれど、両者の間に距離があることを表しています。ドーハやベイルートのハマス指導部の感覚とガザのハマスの感覚とはかなり違っています。

クリス・ヘッジス：では、１０・７に移りましょう。あなたはあれをどう考えていますか。

パオラ・カリディ：メディア・ニュースでは、ハマスのカッサム旅団とイスラム聖戦軍事組織のアル・クッズ旅団の中のほんの僅かの人間が１０月７日のイスラエル奇襲を決定したとあります。そして多くの戦闘員たちがフェンスを乗り越えていきました。作戦の目的ははっきりしていて、１０・７から数カ月後にハマスが発表した声明に述べられています。イスラエル人の人質を多くとって、イスラエル獄舎にいるパレスチナ囚人と交換するつもりだった。イスラエルの刑務所には数千人のパレスチナ人が・・・

クリス・ヘッジス：女性や子どもも含めて。

パオラ・カリディ：女性や子どもも行政拘留という訳の分からない形で刑務所に入れられています。パレスチナの党派に属さない普通の人々が収監されているのです。イスラエル刑務所で長く拘束されていたヤヒヤ・シンワールはそのことをよく知っていたので、彼の目的の一つは捕虜交換で彼らを助けることでした。二つ目の目的はエルサレムです。ハラム・アッシャリーフ、つまりアル・アクサ・モスク、神聖なる遊歩道、ユダヤ人から見れば神殿の丘で、ネタニヤフ政権が入植者や軍を使ってやっていること、即ちモスクを潰して第三の神殿を建設するというユダヤ教の「終末の予言的計画」への反撃も目的でした。

２０２１年にハマスはエルサレム問題がパレスチナ問題の中心問題であることを行動で示しました。エルサレム巡礼をツールにしてガザという野外刑務所の塀を乗り越え、ガザを出て、パレスチナ問題全体に取り組もうという姿勢を人々に理解させたかったのです。だから１０・７攻勢を「アル・アクサ洪水」と名付けたのです。第三の目的は西岸地区です。彼らは、我々はガザに閉じ込められてはいない、我々はパレスチナの政治的領域の一部だ、境界を越え、塀を開き、野外刑務所を解放し、パレスチナの地に存在することを示しかったのです。

クリス・ヘッジス：あなたの著書はエルサレムがパレスチナ人のアイデンティティであり、抵抗運動の中核であると力説しているように、私は思いました。何故エルサレムがそれほど重要なのですか。
パオラ・カリディ：エルサレムは単なる宗教的シンボルではありません。エルサレムはそれ以上のものです。民族的シンボルであり、民族の象徴です。それはハマスにとってだけではありません。占領地（OPT）のパレスチナ人にとってだけではありません。イスラエル国内のパレスチナ人にとってもそうです。イスラエルには２００万人のパレスチナ人がいます。イスラエル人口の２０％です。さらに、イスラエル・パレスチナの外のパレスチナ人、ディアスポラのパレスチナ人も、エルサレムを宗教的シンボルとしてばかりでなく、自分たちの神話、自分たちのアイデンティティと見ています。ムスリム・パレスチナ人だけではありません。キリスト教徒パレスチナ人もムスリム・パレスチナ人と同じで、エルサレムを民族的アイデンティティにしています。彼らはエルサレム旧市街で会い、それぞれ協力して祈ります。だから、イスラエルがエルサレムを独り占めにしようとしているのは、パレスチナ人にとって最後の息の根を止めるようとするものです。エルサレムの放棄を迫るものです。
　２０２１年、エルサレムの各地で、パレスチナ人から聖地を奪おうとするイスラエルや狂信的入植者に抗議する非暴力抵抗がありました。旧市街、ハラム・アッシャリーフ・アル・アクサ（the Haram al-Sharif al-Aqsa）、ダマスカス門の前で抗議行動がありました[11]。それらの場所は、世俗的なアラブ感情の中心部分、パレスチナ感情の中心部分です。旧市街北にあるシェイク・ジャラは、アメリカン・コロニーのすぐ近くであり、狂信的メシア信仰の入植者が、この土地はユダヤ人のものだと言ってパレスチナ人から取り上げようとする問題[12]があったのです。
クリス・ヘッジス：エルサレムの風景はすっかり変わりました。私が初めてエルサレムを訪れた１９８８年と比べると、もうその面影がないほど変わりました。先住民を追い出し、新しい建築物を建て、アラブ的なものを消し去って、すべてユダヤ化してしまいました。
　最後に現在のガザ戦争に移りましょう。ネタニヤフ政府はこの戦争はハマスとの戦争であってその殲滅が必要だと言っています。ガザへの徹底的攻撃で今後ガザやハマスはどうなると思いますか。
パオラ・カリディ：私が見る限り、ハマス殲滅ではなく、ガザ殲滅がイスラエルの戦争目的だと思います。ガザ侵攻の数週間後に戦争目的が変化したと思います。ガザからパレスチナ人を追い出すことが目的となりました。それに成功すれば、次は西岸地区が目標になります。すでに西岸地区では悲劇的な民族浄化が始まっています。要するに、パレスチナからパレスチナ人を追い出すことがイスラエルの目的です。つまり、第二のナクバです。それはまた、二つの国家という考え方の終わりを意味しますが、私たちが知っている二つの国家というのは何年も前に視点としては死んだのです。それはまた、１９４８年のナクバでやり残したことの総仕上げなのです。つまり、イスラエル政府は、パレスチナからのパレスチナ人の追放を終わらせるというこの目標に到達しようとしています。
クリス・ヘッジス：ハマスはどうなるでしょう。
パオラ・カリディ：ハマスはガザだけに存在するのではありません。ドーハやベイルートにも存在します。ハマスはパレスチナ社会に深く根を下ろした運動体です。排除することなどできません。西岸地区発信のネット映像を見ると、人々がハマスのアル・カッサム旅団に西岸地区を解放してくれと叫んでいる映像があります。アル・カッサム旅団が西岸地区に入ることはないでしょうが、イ

---

[11] ラマダンの祈りの呼びかけを放送する拡声器のケーブルを切ってイスラエル警察に抗議して、お祈り集会などが行われた。警察は実力排除して、各地で小競り合いが起きた。
[12] イスラエル警察が立ち退きを強制したので、衝突が起きた。

スラエルはハマスという雑草を刈り取ることで、かえってハマスの人気を高めているのです。確かにハマスはガザ以外の場所で支持基盤を強化しています。ネタニヤフは名目上ハマス退治を戦争目的にあげていますが、パレスチナ人ばかりかアラブ世界の人民のあいだで、反イスラエル・親ハマスの声を高めています。

クリス・ヘッジス：新し世代にトラウマを受け付けることになるでしょうね。昔ランティースィ（Rantisi）にインタビューしたことを思い出しました。彼はハーン・ユーニスで９歳の子どもだった頃の話をしてくれました。ガザがイスラエルに占領された１９５６年のことで、イスラエル軍は成人男性と青年たち（その中にはランティースィの叔父も含まれていました）を壁の前に整列させて、撃ち殺したのです。その瞬間に、イスラエル人の目的はパレスチナ人の皆殺しであると子ども心に悟ったと話してくれました。今後この皆殺し戦略はどのように展開するでしょう。

パオラ・カリディ：私には分かりません。私はヨルダンから観察していますが、誰も何も言いません。しかし、人々の顔には耐え難い苦痛、ガザから伝わってくる悲劇に心を痛めているのが、はっきり分かります。米国やヨーロッパやイタリアでは人々はガザの映像を見ません。ガザの映像はアラブの人びとにとっては、本当に見るのが辛いものばかりです。飢えで死んでいく子どもたちの映像は耐え難いものです。私は女ですので、生理用品も何もないため、女性が生理不順で苦しんでいるのを想像できます。パンも小麦粉も、何もかもがなくて、飢えに苦しんでいます。人道的危機なんて言い方ではその残酷さは表現できません。人道的危機という言い方は、これがパレスチナ人だけでなく私たち人類に対する政治的危機、政治的な大問題であるという事実を覆い隠します。

クリス・ヘッジス：ありがとうございました。これで終わります。